

(2) 地域総合研究センターの調査・研究活動内容 (2003.10~2004.3)

今回の地域総合研究センターの活動報告は6ヶ月間の報告となる。活動実績の中から、テーマ1の①コミュニティ・ビジネスの発展のための支援、テーマ2『生活記録による世代間交流事業』、テーマ3の②新村地区「ものぐさ大学」、テーマ6の①地域福祉経営に関する山形村と松本大学の協力についての活動の一部を掲載する。

- ・『コミュニティ・ビジネスについての研究・支援』の中間報告

コミュニティ・ビジネスの発展のための支援として長野県北安曇郡農業普及センターの「農村女性のための仕事こしセミナー」で行なった講演内容を掲載する。

講演テーマ：「安曇野における滞在型グリーンツーリズム」

- ・『生活記録による世代間交流事業』の学習会から

世代間交流学習会は、松本大学が開学した平成14年から長野県南安曇郡三郷村及木老人クラブのメンバーと毎月1回実施している学習会である。世代間交流学習会の際に登場する、お茶受けや料理から今後の研究課題が新たに生まれようとしている。

- ・『地域における学習事業への参画・支援』のものぐさ大学の活動報告

「ものぐさ大学」は「松本大学の開学を起因として、地位と大学がいったいとなって文化の香り高い田園都市新村を築くため、住民が気楽にそして楽しく学ぶための機関及び『講座』として新村公民館内に『ものぐさ大学』を設置し、住民の教養を高め文化の向上を図ると共に明るい活気のある地域づくりを目指すもの。なお、もって地域と大学が共同で新しい文化の創造性の高い地域コミュニティづくりを進めたい。」の趣旨により、新村公民館、新村地区福祉ひろば、松本大学が協力して主催し、「ものぐさ大学」理事会（実行委員会）の作成したカリキュラムに沿って実行された。

第1回 6月 「山菜や薬草の採取と試食会」 烏川溪谷に 新村地区根橋信水先生

第2回 7月 「日本の美術、世界の美術」 諏訪方面の美術館めぐり

・松本大学学生と地区住民との交流会を兼ねて

第3回 10月 「物ぐさ太郎サミット」 基調講演 松本大学腰原哲朗教授

・松本大学大学祭へ参加

第4回 11月 「物ぐさ太郎ゆかりの地、京都を訪ねて」 京都へ1泊2日の研修旅行

・松本大学観光コースの学生が研修旅行日程作成し、添乗、実施した。

第5回 1月 「ダイエットと健康」 松本大学体育館にて 松本大学中島弘毅助教授

・『地域福祉経営に関する山形村と松本大学の協力』の中間報告

第6回 3月 「物ぐさ太郎の比較文化論」 新村公民館 松本大学中野和朗学長

今回は3月の修了式に行われた最終講義の概要を掲載する。また、関連の論文を掲載（P.186）しているので参照いただきたい。

- ・地域福祉経営に関する研究・支援の中間報告

山形村の地域福祉経営について、平成14年7月から山形村と松本大学の協力により学生参加型の事業を展開している。今回は、その一部を報告する。

農村女性仕事おこし第4回セミナー

「安曇野における滞在型グリーン・ツーリズムの可能性」 講演の記録と報告

松本大学松商短期大学部
住吉 広行

はじめに

2003年12月、暮れの押し迫った雪の日、安曇野ちひろ美術館を会場に、第4回目の農村女性仕事おこしセミナーが開催された。この日、ちひろ美術館は冬季休館中であったが、このセミナーのために会場を貸してくださった。というのも、冬場で日が短く、小谷村など遠い地区から参加される女性の方々のために、なるべく北の方でできればということで、お願いしていたからでした。こうしたイベントに美術館を利用できるようにするのは、館の運営方針にも盛り込まれているのです。¹⁾

このセミナーの開催は、「地域総合研究」第3号に「飛騨・美濃見聞録」²⁾を寄稿してくださった、北安曇郡農業普及センター地域生活課・課長補佐の矢島悦子さんの発案に依っています。松本大学で開催されたコミュニティ・ビジネス講座の『地域づくり学習会』とその実践活動の一つとしての『研修旅行』で、飛騨高山・清見村と美濃明宝村・郡上八幡を訪れた矢島さんが、自分達も何かしたいとの思いから立ち上げています。35名もの農村女性が参加しているのは、矢島さんの日頃の活動の広がりを表していると思われまます。

私はその第4回目のセミナーに講師としてお招きを受け、「安曇野における滞在型グリーンツーリズムの可能性」と題してお話をさせていただきました。本報告はその時の講演の記録です。講演内容は、次のような構成になっていました。(1)グリーンツーリズムの系譜、として最初にグリーンツーリズムという概念^{3), 4)}へと至る経緯を示しました。次に(2)グリーンツーリズム—その背景と時代認識—、としてグリーンツーリズムが求められている背景を述べるとともに、観光をとらえる大局的な視点について私見⁵⁾を紹介しました。その中で、地域生活者の目線で観光(ツーリズム)を見直すと言う視点から、(3)番目のテーマとして、2003年度に10名の学生と共に始めた特別研究「観光とコミュニティ・ビジネス」の研究成果⁶⁾を紹介したのです。

その後、大雪にもかかわらず参加された方々から率直な意見をお伺いできる機会がありましたが、そこには白戸洋先生の他に、特別研究に参加した短大生2名と松本大学総合経営学部生1名も同席して、討論に加わりまました。

ここでは、当日の講演に使用したトランス・ピアレンシーの原稿を内容を変えることなくそのまま、しかし紙面の都合で行間を詰めて掲載しました。特別研究の紹介には、学生が準備したものをそのまま縮小して掲載しました。古沢広祐国学院大学教授を招いて開催した「地球環境と21世紀の文明のあり方」と題する講演会⁶⁾において、研究活動の中間報告を行おうと準備したものです。この講演会は、私自身が松本深志高校・尚学塾において行った出前授業⁷⁾を、高校においてではなく松本大学で行おうとしたものでもありました。

2003.12.19 於：安曇野ちひろ美術館

農村女性仕事おこし第4回セミナー

安曇野における滞在型グリーンツーリズムの可能性

松本大学松商短期大学部／経営情報学科長・教授

住吉 広行

(1) グリーンツーリズムの系譜

○1960年代以前

農村部の役割：大都市への労働力提供

1962年 全国総合開発計画

新産業都市 15地域

工業特別整備地域 6地域

農村部の役割：地方拠点（新産業都市など）への労働力提供

○1970年代 新全国総合開発 田中角栄の「日本列島改造論」

富と人口の中央集中を認め、地方の分業を推進

都市型産業や管理機能は中央に置く

巨大産業基地と観光地

ex. むつ小川原・志布志湾プロジェクトに土地提供

中央の勤労者の憩いの場を提供

○1980年代後半 都市部：生産最優先→個性とゆとり リゾート開発が過熱

1987年 総合保養地域整備法（リゾート法）

環境保全に関する規制を大幅緩和 スキー場、ゴルフ場、マリン施設

長野県では「小海リエックス」

○1990年代前半 バブルの崩壊 大規模リゾート→ファミリー・リゾート

小規模田園リゾート

1994年 国土庁（当時）農村生活体験型・都市農村交流型のリゾートを提言

○1998年 五全総（「21世紀の国土のランドデザイン」）

地域の独自性と住民の自発性

「新ふるさと産業システム」、農山村のグリーンツーリズム、

漁村のブルーツーリズム

(2) グリーンツーリズム その背景と時代認識

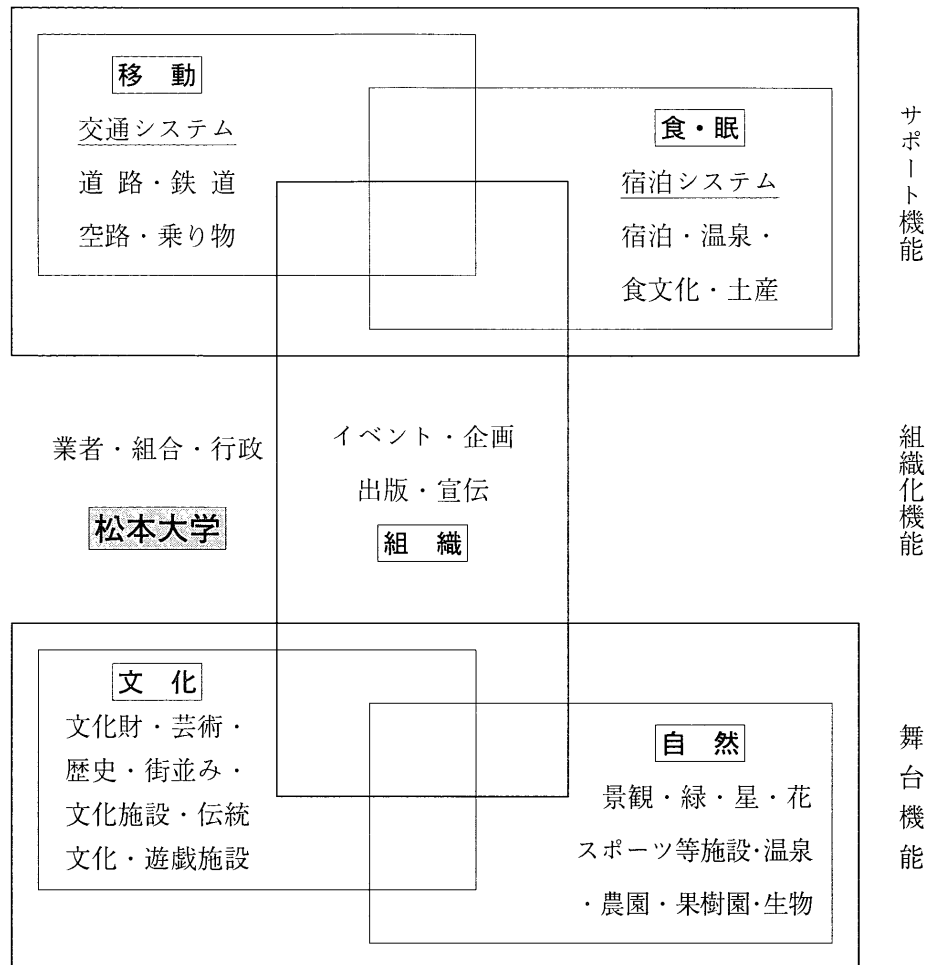
○背景

現代の都市生活者は疲れている ゆとりややすらぎを求めている

→豊でおおらかな自然こそ癒しの場+地域振興

=自然と共存する観光（グリーンツーリズム）

○観光をとらえる視点



観光の舞台機能とそれを支える二つの機能の相互関係

○グリーンツーリズムの条件

- ①農山漁村の生活や生業を体験する
- ②地域の人々と交流する
- ③地域の自然と親しみ大切にする（エコ・ツーリズム）
- ④地元の人がサービス提供の主体

○観光の類型化（古川・松田に拠る³⁾）

- ①エキゾチックで風変わりなもの 少数民族
- ②都市で消滅したもの、地方色 文化観光
- ③歴史的遺物やその展示 歴史観光
- ④スキー・ゴルフ、カジノ レクリエーション観光
- ⑤森林・僻地、人間と土地の関係 環境観光→グリーンツーリズムの母胎

○問題点 都市の論理

食料・木材の供給→ +国民に憩いの場を提供
フランスでもバカンスは田園・山村へ

○地域生活者の目線で観光を見る

→特別研究の成果の紹介

(3) 特別研究 -中間報告-

テーマ 「観光とコミュニティービジネス」

メンバー (松本大学松商短期大学部2年)

武居善孝 大日方裕子 河西真由美 田中智枝子 松井恵美子 山田さつき
 工藤智子 杉下知代 武井砂裕美 細田佳奈子 監修 住吉広行

1. はじめに (工藤智子)

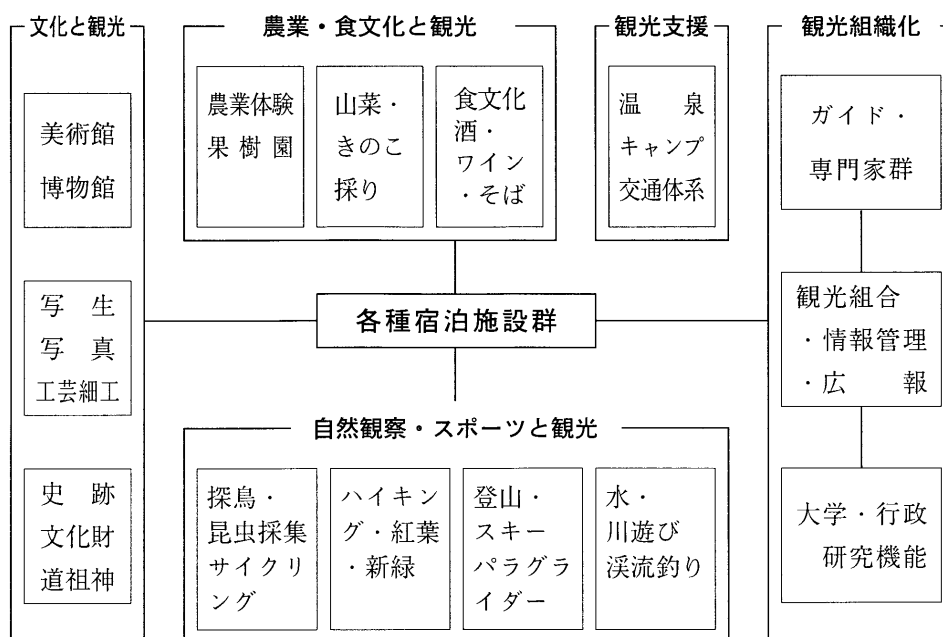
これからの観光のあり方・・・ マスツーリズムからグリーンツーリズムへ

グリーンツーリズムとは？

自然環境と文化と人間の共生を目指し、地域の生活そのものを理解した観光

2. 安曇野の観光資源と安曇野におけるグリーンツーリズム (杉下知代)

安曇野の観光資源と安曇野におけるグリーンツーリズム



安曇野における滞在型グリーンツーリズムの構想と概念図

※安曇野でどのようにグリーンツーリズムを展開していくか

※協力体制 (宿泊施設の賛同者、農家、案内人 etc)

※旅行先での交流 (滞在型)

3. 安曇野ちひろ美術館 インフォメーションデスク (山田さつき)



デスクに立つ河西・田中

応接する竹迫副館長と松田・工藤



- ①お客様に聞かれた事
- ②公共交通機関が不十分という問題

4. 安曇野美術館巡り (田中智枝子)



絵本美術館森のおうち

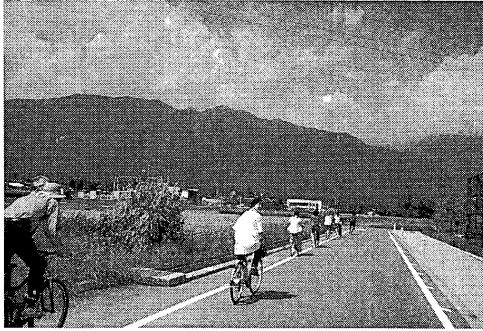
夢穂高美術館



- ①ゆったりとした時間
- ②入場料の問題

5. サイクリング (河西真由美)

◆目的 移動手段の問題を考える



風を切って走る



レンタサイクル ひつじやさんの前で

◆結論

サイクリングロードの整備を行うことが、安曇野の地の新しい観光へとつながる

6. 農家民宿あぶらや⁸⁾ (松井恵美子)



ラベンダー畑

流しそうめん



- 良い点 民宿を通し、地域の人とコミュニケーション
- 悪い点 一家族ずつしか宿泊できない (金額は1家族1泊1万円)
- 改善点 あぶらやさんみたいな民宿をもっと増やす

7. 天龍村⁹⁾ (細田佳奈子)

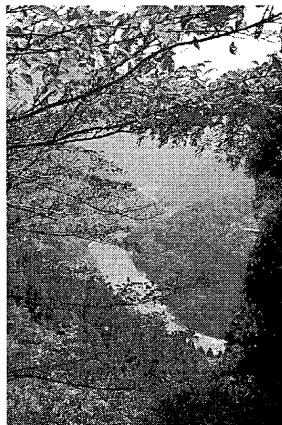
山村民宿「あしかが」 ・天竜御膳 (栃粥・五平餅・鮎 etc 1泊2食付き¥6,000~)

・囲炉裏のある民家、近くに温泉施設有り

・静かな山奥

ゆべしの里 関さん率いる村の老人の方々が丹精こめて作る特産品

茶畑 静岡県境の山で採れたお茶は味もさることながら、そこから見た景色は心が晴れるような素晴らしさ



美しい青緑の
大蛇のような川

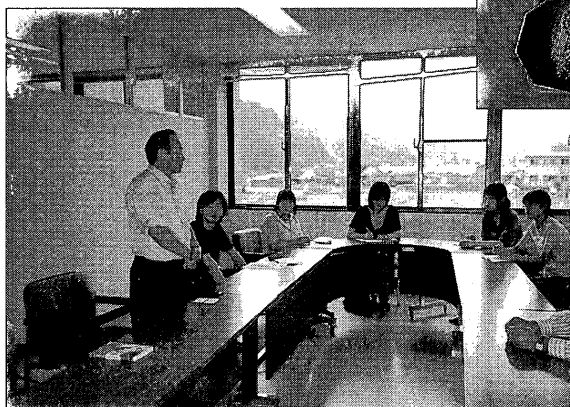
8. 売木村¹⁰⁾ (武井砂裕美)

☆摘み草で地域おこし☆

- ・地域の方の仕事、生きがい
- ・村が元気になっている
- ・都会から訪れて体験している
- ・摘み草サミットの開催



私達が食べた摘み草料理



売木村役場にて

9. まとめ (武居善孝)

○成果 信州・安曇野は観光資源の宝庫

○これからの課題 信州グリーンツーリズムの定着 ー理解者・賛同者の増加ー

おわりに

講演終了後、自由討議が行われた。この時間にはお茶でも飲みながらと言うリラックスした雰囲気も有り、新しく開発しようとしているいくつかの製品の試作品が回され、試食会の様相も呈していた。新製品に対するネーミングの募集もされていた。

本学から参加した学生は、その年齢にも注目され、若者としての意見を求めて多くの質問が出された。学生は、自らの体験を基にしてよく答えていた。その中で記憶に残っていることは、①グリーンツーリズムと言えば民宿経営するものだと思っていた参加者が多くいたこと、②講演を聞いて、何をなすべきか大局的な視点が得られて役立ったという意見があった（これこそが、私の狙いだったので嬉しく聞いていた）、③参加者間での協力体制が具体的課題に則して行われようとしてきたこと、などが上げられる。

大雪の中参加された方々の熱気に包まれ、会場には先行き楽しみな雰囲気が漂っていた。

地域総合研究センターが行った「地域づくり学習会」が、このような形で芽を出していることに嬉しさを感じるとともに、私の方も理論的活動のみならず、より実践的な方向へと歩み出して行かなければと強く感じさせられた時間でもあった。

謝 辞

学生の南信濃への、体験・見学・調査ツアーに文献9)や10)を紹介下さったうえで、調査のコースや役場など面接の手配など一手に引き受けてくださいました、新葉社の矢沢律子さんに感謝いたします。また、このセミナーでの講演の機会を与えて下さいました矢島悦子さんには、学生への配慮や、会場の設定などその労に感謝致します。

参考文献

- 1) 松本 猛「ぼくが安曇野ちひろ美術館をつくったわけ」講談社, 2002.5.
- 2) 矢島悦子「飛騨・高山見聞録」地域総合研究 Vol. 3, 2003.10 松本大学
- 3) 古川彰・松田素二編 「観光と環境の社会学」2003.8, 新曜社
- 4) 建石繁明「農業と観光ー都市と農村の共生をめざしてー」, 地域社会と総合経営,
松商学園公開講座実行委員会編, 郷土出版社 2001.3, pp.189-206,
成 耆 政「農業・農村地域活性化のためのグリーン・ツーリズムの発展戦略」
地域総合研究第3号 松本大学地域総合研究センター 2003.10.
- 原 剛「農業から環境を考える」集英社新書
- 5) 住吉広行「観光をとらえる視点」松商短大論叢第52号, pp.79-112, 2002.3
- 6) 古沢広祐「地球環境と21世紀の文明のあり方」公開講座 2003.11.
- 7) 住吉広行「地球経営と科学」平成15年度 松本深志高校・尚学塾 出前授業 2003.6~2004.2
- 8) 「新しい旅 グリーン・ツーリズム③ 長野、北安曇」やさい畑 2003夏号 家の光協会, 2003.5, pp.78-87.
- 9) 天龍村情報誌「RYU」新葉社, 2003.7.
- 10) 「足元の草が地域を元気にする」篠原準八監修・日本つみくさの会刊, 新葉社, 2003.5.